

2025 年第 33 週の報告です。お盆休み期間と重なった為、報告数は全体に減少傾向です。

その中で、今週も伝染性紅斑は全国で警報レベルです。京都府全体の警報レベルも継続しており、保健所別では、山城北、中丹東と丹後で警報レベルが続いています。

全数報告対象疾患は結核と梅毒がそれぞれ 4 件、腸管出血性大腸菌感染症・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・バンコマイシン耐性腸球菌感染症がそれぞれ 1 件、レジオネラ症・侵襲性インフルエンザ菌感染症・侵襲性肺炎球菌感染症がそれぞれ 2 件、百日咳が 21 件報告されました。

京都府の COVID-19 の報告数が 2025 年第 24 週（6 月 9 日～15 日）から 9 週連続で増加しています。2023 年及び 2024 年の傾向と比較して今年の報告数の増加速度は緩やかではありますが、今後学校が新学期を迎えれば、小児を中心に患者数が増えるおそれがあります。

この夏季シーズンにおける全国的に主に流行している株は、オミクロン株の一種の NB.1.8.1 という系統です（※1）。これまでのオミクロン株より感染力がやや高いとされています（※2）、重症化リスクが特別高くなるという報告は現状ありません。

まだまだ暑さの厳しい日が続くと予想されますが、引き続き個人個人の状況に応じて換気を行い、うがい、手洗い、手指消毒等の基本的な感染対策を心がけましょう。また、咳やのどの痛みなどの症状がある場合はマスクを着用するなど、咳エチケットへの配慮もお願いします。

※1 国立健康危機管理研究機構（JIHS）. 「新型コロナウイルス ゲノムサーベイランスによる全国の系統別検出状況（.pdf）2025 年 6 月（2025 年 7 月 16 日時点）」. 感染症情報提供サイト. [20250716_Jun_zenkoku_lineage.pdf](https://www.jihs.go.jp/lineage/20250716_Jun_zenkoku_lineage.pdf), (参照 2025-08-22) .

※2 東京大学医科学研究所. 「SARS-CoV-2 オミクロン NB.1.8.1 株のウイルス学的特性の解明」. https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page_00338.html, (参照 2025-08-22) .